

《翡翠を化学式から見る・・・色々な『ヒスイ』と呼ばれる宝石達》 in 東京 に参加し 改めて翡翠に思う事

JGS 会員 (有)哲宝 jeweler's atelier TE*TSU*SHI
伊東てつし

7月に大阪で行われました、翡翠を化学式から見る・・・というテーマのセミナーを、9月に東京(オーラムビル2階、ジュエラーズジャパン会議室)でも開催されるとお聞きし、大変ありがたく、ラッキーな気分を受講させて頂きました。

受講したいと思いましたが理由と致しましては、まず、元全宝協(大阪支店)であるジェム リサーチ ジャパンにご所属の福田千紘氏が講師をされる《化学式》のセミナーである事。

私自身は、宝石は地球の生い立ちの一部、地質・鉱物・元素の構成、自然の科学としか気にしておらず、その為か、普段の買い付けの際も販売の際も、《化学式から》と言った見方をした事がございません。ですので、何か、改めて自分自身に新しく、科学では無く化学の部分を感じ得られるのではないかと考えました。

又、私事ですが『トロンとして心が吸われる様な、生地の良い翡翠』は大好きな宝石の1つです。しかし、商材としては、なかなか手を出さない宝石の代表格と言えます。

何故ならば、もちろん自分の目を信じて仕入れる訳ではありますが、きちんとした分析を必要とする宝石と考え、買い付け後、すぐに鑑別・分析に出す宝石の2つの内の1つです。

私が即ソーティングに出す宝石のもう1つは、カラーダイアやレアなダイア達です。

翡翠とダイア、この2つの宝石は、販売をする上で、きちんとした第三者機関の正確な分析による、ナチュラルである開示が必要な宝石だと、私的な理念として扱っております。

通常の間晶質で透明な色石宝石ならば、処理の度合いや疑問符な物は買わないと言う、私なりの判断が付けられるものの、片やジェイダイトに関しましては、疑問符が多く感じられる難しい厄介な宝石です。

昔とは異なり、近年のポリッシュの良さには本当に感心させられるばかりですし、ワックス自体の美しさのごまかし、多種多様な新しいナチュラルの生地感等、含浸処理を疑う以前に頭を抱えてしまう物が増えております。

はたまた、逆に、恐ろしく素晴らしいクラスのジェイダイトに見えるオンファサイトとやらには、ぜひ遭遇してみたい物の1つではあります。そんな、様々な疑問符を頭に持ちながらの参加とさせて頂きました。

今回の、『化学式から見る・・・』と言った、難しいテーマでのセミナーでしたが、『ヒスイと呼ばれる宝石達』という範囲であり、馴染みのある、昔(今も?)お土産やアクセサリーに見られました国名を付けた〇〇ヒスイ等、クォーツ系や様々な鉱物達から模造ガラスまで、幅も広くサンプル数の多いのセミナーでした。

化学式からのご説明は、ジェイダイトを含む鉱物のグループでの、オンファサイトとジェイダイトでの『ナトリウムとカルシウムのあり方』や、私などでは馴染みの無いエジリン輝石とジェイダイトとの『鉄とアルミのあり方』の化学式。又、ネフライト等、角閃石等。これら多くをスライドと資料を使われ、難しいながらも短時間に丁寧にご説明頂きました。

私、個人的には、オーダーでもないクォーツ系はアメシストですらお勧め出来ない物としての扱いですので、セミナーでは、クォーツ系の化学式が出てきた時点から、脳ミソぐちゃぐちゃな状態でした(笑)。

セミナーの前日か、予習が必要的なメールが事務局側より届いていたのですが、確かに予備知識といえますか、翡翠グループに対する脳ミソのブラッシュアップすらしておかなかった自分が本当に残念です(汗)。

普段は「ラベンダー色はマンガン絡み?」といった元素単体で表現する事はありましても、きちんとした化学はおざなりにしている自分に対して、正しい『化学式』から考え接するという事を経験させて頂けた、とても貴重な時間となりました。

さて、今回、とても参加人数の多い人気のセミナーを体験し、改めて翡翠系グループの人気や奥深さを見て、感じて、、

日本人、アジア人の好きな翡翠という物の、初心に立ち返る思いを致しました。

言うまでも無く、翡翠のマーケットの中心はアジアです。アジアと言いましても、日本や中国を中心としたアジア東部方面の人種的区域が強く反映されます。

高価な方面で言えば、過去、クリスティーズ香港などに代表される様な、恐ろしい程に心を動揺させられる程の、翡翠からなる宝飾品や彫刻等の美術品。

片や宝飾品として以外に、日本では、価格的な価値とは異なり、産地にこだわられ、川から山から海岸から、色々な味とマテリアルを楽しまれるヒスイの楽しみ方。

これらのアジアとは異なり、例えば、アメリカ／ツーソンでは、ナチュラル ジェイダイトを専門に扱う会社は、私の記憶の限り、20 年以上も昔から、AGTA(American Gem Trade Association)の同じ場所の同じブースに、変わらず出展されている会社、たったその1社しか印象に無いぐらいです。

もちろん、アジア系人種の出展社も多く、他のブースや会場でもチョロチョロとは在りますが、ジェイダイトよりも、他のカボションやカービングの人気を強く感じます。

しかし、翡翠に代表される石達は、太古の時代はアジアに限らず別の次元の話と言えるぐらいに、古くからの大切な石として利用されていた文化の歴史であり、海外でも今以上に注目がなされる宝石であると感じております。

私自身は、一昔前の中国人文化からの高騰や、日本の二次流通の仕方、ミャンマーの問題や、アジアの経済力の問題による価値(人気)の上がり下がり。これらの事もあってか、ここ 10 年、残念ながら、心に残るような自分好みの翡翠の仕入れは出来ておりません。

今回の、翡翠グループならではの複雑な『化学式の種類』や『ヒスイと呼ばれる様々なサンプル』に触れる機会を得られ、改めて他の宝石には無い、翡翠達のネイチャーな美しさと楽しさを心に刻む事となりました。本当に良い機会をありがとうございました。